

第6回 碩田中学校区新設校開校準備委員会 会議要旨

日時：平成 28 年 8 月 16 日（火） 19:00～20:30

場所：大分市教育センター 研修室 302

○出席者 18 名、欠席者 1 名

1. 開会のことば

2. 委員長あいさつ

3. 議事

(1) 経過報告

- ・第 6 回開校準備委員会までの経過について説明する。

(2) 各専門部会からの報告・協議について

①報告及び協議

- ・報告と協議を併せて、専門部会ごとに 20 分程度の時間を設定する。

【学校部会】

- ・資料集 5～7 ページを基に、制服、校章、校歌について部会長の安東委員から説明する。

(説明内容の概要)

- ・制服については制服製造業者が決定し、新たに設置した制服制作委員会で協議を進めていく。新たな制服の導入に当たっては、保護者の経済的負担を考慮し移行期間を設ける。前期（1～4年生）の制服導入については、制服の見本を提示しアンケートを取って決定する。
- ・校章については、案を募集したところ 189 点の応募があった。その中から選定した 3 案をデザイン化し、検討を続ける。
- ・校歌については、現在の校歌を残したいという意見もあったが、新しい 9 年制の義務教育学校となることから新たな校歌を制作することに決定した。

<主な意見>

【委員】制服を購入する際、分割払いが可能か。

【委員】分割払いが可能かどうかは制服製造業者ではなく販売業者の判断となる。今後、販売業者に話をしていかなければならないと思っている。

【委員】制服導入の移行期間については保護者などの意見を聞いたか。

【委員】これまで制服導入に関するアンケートを 2 回取っており、その都度、費用のことを説明したりアンケートの結果を公表したりして、十分に意見を聞いた上で協議している。

【委員】現在の碩田中の校歌を残したいので、新しい校歌ができた時に比較してどちらの校歌にするか選択することは可能か。

【委員】学校部会の中でもそのことについては話が出たが、大分市の信頼問題になるのでそれはできない。

＜確認事項＞

○新たな制服の導入に当たっては、保護者の経済的負担等を考慮し移行期間を設けること。また、前期の制服導入については見本を提示し、アンケートを取って決定すること。

○校章については、3つの案を基にデザイン化し検討を続けること。

○新設校の校歌については、新しい校歌を制作すること。

【学校支援部会】

・資料集8～10ページを基に、通学路、登下校時の見守り体制、PTA組織、今後の協議の進め方について部会長の佐藤委員から説明する。

(説明内容の概要)

- ・通学路にある中島1号・2号地下道の改善計画について。
- ・登下校時の見守り体制については、現在の校区ごとの取組を継続する。今後も問題点などを出し合い、その解決策について協議する。
- ・新設校PTA設立準備委員会を立ち上げた。準備委員は各PTAから選出したが、準備委員を29年度の役員という位置付けにはしない。4校PTA合同の臨時総会を12月3日(土)に予定しており、規約、組織(体制)、会費、役員選出方法等の提案を行う。
- ・今後は、新設校に対する地域の支援のあり方を協議し、学校を支援する体制づくりを検討して行く。

＜主な意見＞

【委員】通学路の改善計画は当面の対策を示しているだけで、4月以降も改善点があれば対応するので、なるべく早く見つけて情報を寄せていただきたい。

【委員】中島2号地下道付近は標高が低いので雨の日だけでなく潮位が上がった時も道路が冠水することがある。また、地下道の排水設備が故障して子どもが通れなかったこともあったので、かなり手をかけた排水設備にする必要があると思う。そういったことから地下道をやめて歩道橋の方が良いという意見もある。そしてもうひとつ気になるのは、地下道の出入口がある場所は歩道が狭くなっているため、地下道から上がってきた子どもも歩道を走る自転車もお互いが見えないので、接触事故が起きないか心配している。

【委員】地下道の出入口については、出入口を囲うガラスを透明ガラスに張り替えて見通しを良くし、注意喚起の標識や横断防止柵を設置しお互いが確認しやすくなるようにする予定である。

【アドバイザー】この地域はバリアフリーの重点地区になっており、バリアフリー対応を含めた改善といった視点もあると、色々な人のための多様な改善案が出てくると思う。

<確認事項>

- 登下校時の見守り体制については、現在の校区ごとの取組を継続し、問題点に関して共通理解を図りながら対策案等の体制づくりを進めていくこと。
- 新設校に対する地域の支援のあり方を協議し、学校を支援する体制づくりを検討していくこと。

【施設部会】

- ・別添資料を基に、工事の進捗状況、発注備品、グラウンド整備、地域連携室の活用方法について部会長の兼子委員から説明する。

(説明内容の概要)

- ・工事の進捗率を見ると予定より早く達成しており、工事は順調に進んでいる。
- ・備品については、アトリウム、交流ラウンジ、ランチルーム、オープンスペースなどの各部屋の活用方法に合わせた家具を選定した。
- ・グラウンド整備についてはサッカーコートや部室、給水所などに関して見直しをした。
- ・地域連携室の活用方法については、他校の事例も紹介しながら協議を進めている。

<主な意見>

- 【委員】部室については、部活が増えた時に2階建てにできるような構造になっているか。
- 【委員】グラウンドを広くするために現在の部活の数より1つ多く部室を作る予定にしている。構造上2階建ては難しいし、現時点での設計変更も無理だと思う。
- 【委員長】屋内の部活の部室は体育館側にかなりの数が設置されるようなので、そこと併用するような工夫が必要になる場合も考えられる。
- 【委員】アリーナ棟の北側に住宅街があるので、防音対策は何か考えているか。
- 【委員】アリーナ棟の床面の高さを高くするので、窓から聞こえる音はある程度直接響いたりしないと思う。防音といった点も考慮して設計している。
- 【委員】グラウンド整備に関連して防災機能について言うと、防災用のLPガスのタンクを設置し災害時に使えるようにする予定である。また、蓄光で夜間も点灯する技術を用いた避難誘導板や照明灯を学校・歩道橋などに設置し明りが無くてもたどりつけるようにする予定である。

(3) その他

- ・事務局から、次回の日程について説明する。

<確認事項>

- 第7回の開校準備委員会を11月15日(火)の19時から大分市教育センター研修室202で開催すること。

4. アドバイザーからの助言

- ・アドバイザーである日本文理大学工学部の西村教授から助言をいただく。

【アドバイザーから】

- 資料を見ると、新しい学校を作るに当たって重要なことが決まって行っている証拠のようなものがちゃんと残っていると思う。色々なことが協議して決まっているということは理想的なことであり、またそれを実現できていることが素晴らしいことだと思う。10年後、20年後にどうやって校名や校歌が決まったか確認できる資料になると思うので資料をしっかりと保管して欲しい。
- 大グラウンドの平面図を見ると歩道橋から長いスロープが歩道の上に見えるようになっていて、スロープの柱が歩行者の通行の妨げになることはよくあることだが、それがどの程度かということが問題になると思う。バリアフリー対象者に対してあまり良くない部分があるように見えるので設計者に確認した方が良く思う。

5. 閉会のことば